

# 環境経営レポート

～循環型の住みよい社会をめざして～

令和1年度環境活動(H31.4～R2.3)



令和2年8月29日

 モンノ株式会社

  
環境省  
エコアクション21  
認証番号 0002112

## 1. 事業活動の概要

### (1) 事業者名

モノ株式会社

代表取締役 門野 正市

### (2) 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名:モノ株式会社

対象組織 :モノ株式会社 本社、高砂営業所

活動内容 :ガス外内管機器工事、ガス設備維持管理業務、住宅設備関連機器販売、  
給排水衛生全般の設備設計・施工、舗装工事

### (3) 所在地

本社 〒654-0161 神戸市須磨区弥栄台4-1-3

TEL (078)797-2781

FAX (078)797-2922

高砂営業所 〒676-0037 高砂市高砂町藍屋町1711-9

TEL (0794)-42-1861

FAX (0794)-43-5063

### (4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 取締役事業本部長 大西 忠

連絡先 : TEL (078)-797-2770

EA21事務局 : チーフ 羽賀 久剛

連絡先 : TEL (078)-797-2781

### (5) 事業の規模

活動規模		単位	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 1 年度
工事件数	本社	件	1,692	2,044	1,919
	高砂		918	570	520
	全社合計		2,960	2,614	2,439
従業員	本社	人	73	66	66
	高砂		9	9	9
	全社合計		82	75	75
床面積	本社	m <sup>2</sup>	4,711.48	4,711.48	4,711.48
	高砂		1,128.80	1,128.80	1,128.80
	全社合計		5,840.28	5,840.28	5,840.28

### (6) 事業内容

ガス外内管機器工事、ガス設備維持管理業務、住宅設備関連機器販売  
給排水衛生全般の設備設計・施工、舗装工事

## 2. 環境方針

### 企業理念

モノ株式会社は神戸市山手にあり北に太古以来、手付かずの原生林に囲まれた太山寺、西南に神戸地下鉄沿線に広がる住居地域に隣接した神戸流通センターの一角で「自然、業・住」の同居した良き環境の中で事業活動を行っています。

これらの環境を含む地球規模の環境保全が社会共通の最重要課題であることを認識し、事業活動のあらゆる面で工夫と技術を駆使し、環境負荷の継続的な削減に取り組むことによって社会の発展に貢献します。

### 環境方針

当社はあらゆる企業活動が地球環境と深く関わっているということを認識し、土木工事、管工事、水道施設工事、舗装工事の設計・施工を通じて環境との調和を図り、持続可能な循環型社会の実現に継続的に取り組むことを誓います。

1. 当社の事業活動に関する環境関連の法規・条例および大阪ガス環境方針の要請事項を含む、その他の要求事項を遵守します。
2. 事業活動における環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取り組みます。
  - 1) 事業所及び建設現場でのCO2の削減(電気、都市ガス、ガソリン、軽油)
  - 2) 事業所での一般廃棄物排出量の削減と再生利用の促進
  - 3) 事業所での節水の推進
  - 4) 事業所でのOA紙使用量の削減
  - 5) エネファーム、太陽光パネルの販売促進
  - 6) 建設現場での非開削工法による掘削土の発生抑制
  - 7) 建設現場での低騒音・低振動の工具使用の徹底
3. 環境方針は全従業員に周知いたします。

平成19年6月 1日制定  
令和 元年5月27日改定  
モノ株式会社  
代表取締役 門野正市

### 3. 環境目標とその実績等



#### ① 環境目標と実績値(全社トータル)

(\*\*%) : 基準値を 100%とした場合の削減%

NO.	取組項目	環境方針	基準年度実績		前年度実績				
			平成18年度	平成30年度実績	令和1年度目標	令和1年度実績	令和2年度目標	令和3年度目標	令和5年度目標
1	電気使用量(kwh/年)	2.(1)	223,026	119,522	基準年比 23 %減 171,730.02	118,186	基準年比 24 %減 169,499.76	基準年比 25 %減 167,269.50	基準年比 27 %減 162,808.98
2	都市ガス使用量(m <sup>3</sup> /年)	2.(1)	30,843	17,713	基準年比 23 %減 23,749.11	17,170	基準年比 24 %減 23,440.68	基準年比 25 %減 23,132.25	基準年比 27 %減 22,515.39
3	ガソリン使用量(L/年)	2.(1)	104,826	58,230.30	基準年比 23 %減 80,716.02	51,276.43	基準年比 24 %減 79,667.76	基準年比 25 %減 78,619.50	基準年比 27 %減 76,522.98
4	軽油使用量(L/年)	2.(1)	11,127	6,111.64	基準年比 23 %減 8,567.79	3,287.03	基準年比 24 %減 8,456.52	基準年比 25 %減 8,345.25	基準年比 27 %減 8,122.71
5	天然ガス(圧縮)使用量(m <sup>3</sup> /年)	2.(1)	1,287	0	台数・稼動ともに増加 H19年度基準に変更 990.81	0	基準年比 24 %減 977.95	基準年比 25 %減 965.08	基準年比 27 %減 939.34
6	*1 CO2排出量(kg/年)	2.(1)	417,861	233,329.59	基準年比 23 %減 321,753.32	215,251.26	基準年比 24 %減 317,574.70	基準年比 25 %減 313,396.09	基準年比 27 %減 305,038.86
7	一般廃棄物排出量(kg/年)	2.(2)	12,181	5,677.90	高砂営業所の基準値 平成20年度に上方修正 10,597.47	6,495.80	基準年比 14 %減 10,475.66	基準年比 15 %減 10,353.85	基準年比 17 %減 10,110.23
8	上下水道使用量(m <sup>3</sup> /年)	2.(3)	2,570	1,435	基準年比 13 %減 2,235.90	1,365	基準年比 14 %減 2,210.20	基準年比 15 %減 2,184.50	基準年比 17 %減 2,133.10
9	OA紙使用量(kg/年)	2.(4)	4,247	3,544	基準年比 13 %減 3,694.49	3,169.2	基準年比 14 %減 3,652.02	基準年比 15 %減 3,609.56	基準年比 17 %減 3,524.63
10	*2 エネファーム(台/年)	2.(5)	平成28年度 基準値 33	39	基準年比 6 台増 39	19	基準年比 8 台増 41	基準年比 10 台増 43	基準年比 12 台増 45
11	太陽光パネル(戸/年)	2.(5)	平成28年度 基準値 34	31	基準年比 6 台増 39	24	基準年比 8 台増 41	基準年比 10 台増 43	基準年比 12 台増 45
12	非開削工法による掘削土削減(m <sup>3</sup> /年)	2.(7)	H19年度基準 312	53.3	基準年比 13 %増 352.6	410.9	基準年比 14 %増 355.7	基準年比 15 %減 358.8	基準年比 17 %増 365.0
13	低騒音・低振動の工具使用の徹底	2.(8)	低騒音・低振動の工具使用を徹底し、環境の保全と創造に関する条例第60条第1項の規定、特定建設作業の騒音・振動がそれぞれ、特定建設作業の場所の敷地の境界線において、(騒音)85デシベル・(振動75)デシベルを超える大きさのものでないことを遵守						

\*1CO2 排出量の内、電気の CO2 排出量算出に係る排出係数(調整後)は、次ページに示す通りサイトによって違った値になっている。

\*2 エネファーム : 都市ガス・LP ガスなどから改質器を用いて燃料となる水素を取り出し、空気中の酸素と反応させて発電と同時に発熱する熱を給湯に有効利用する高効率なエネルギーシステム



② 事業所での環境目標設定とその実績値

(\*\*%) : 基準値を 100%とした場合の削減%

取組項目		基準値	令和1年度		令和2年度	令和3年度	令和5年度
		平成18年度 実績 100%	目標	実績	目標	目標	目標
			13%削減 CO2排出項目は23%削減		14%削減 CO2排出項目は24%削減	15%削減 CO2排出項目は25%削減	17%削減 CO2排出項目は27%削減
CO2 排出量 削減	電気使用量 (kwh)	176,322	135,767	89,582	134,004	132,241	128,715
	<本社>	46,704	35,962	28,604	35,495	35,028	34,093
	<高砂事業所>	223,026	171,730	118,186	169,499	167,269	162,808
	<計>						
	都市ガス使用量 (m³)	27,891	21,476	16,342	21,197	20,918	20,360
	<本社>	2,952	2,273	828	2,243	2,214	2,154
	<高砂事業所>	30,843	23,749	17,170	23,440	23,132	22,515
	<計>						
	ガソリン使用量 (L)	38,400	38,219	14,351	37,723	37,227	36,234
	<本社>	11,235	0	0	0	0	0
<高砂事業所>	49,636	38,219	14,351	37,723	37,227	36,234	
<計>							
*1 CO2排出量 (kg)	211,108	162,553	108,188	160,442	158,331	154,108	
<本社>	48,888	37,644	12,915	37,154	36,666	35,688	
<高砂事業所>	259,996	200,197	121,104	197,596	194,997	189,797	
<計>							
一般廃棄物排出量 (kg)	21,070						
<本社>	*2 10,030	*2 8,276	*2 6,200	*2 8,262	*2 8,926	*2 8,324	
<高砂事業所>	12,682						
<計>							
上下水道使用量 (m³)	2,116	1,841	1,188	1,819	1,798	1,756	
<本社>	454	395	177	390	385	376	
<高砂事業所>	2,570	2,236	1,365	2,210	2,184	2,133	
<計>							
OA紙使用量 (kg)	3,324	2,892	2,657	2,858	2,825	2,758	
<本社>	922	802	512	792	783	765	
<高砂事業所>	4,247	3,694	3,169	3,652	3,609	3,525	
<計>							
環境 配慮 商品 の 拡 販	エネファーム (台)	*3	基準年度H28年度				
	<本社>	2	5	12	6	7	9
	<高砂事業所>	31	34	7	35	36	38
	<計>	33	39	19	41	43	47
	太陽光パネル (戸)	*3	基準年度H28年度				
	<本社>	4	7	16	8	9	11
<高砂事業所>	30	33	8	34	35	37	
<計>	34	40	24	42	44	48	

\*1 購入電力の CO2 排出係数について

目標値: 平成 20 年度関西電力の電力CO2係数 0.355kg-CO2/kWh を使用して設定

実績値: 平成 18 年度～平成 24 年度は平成 20 年度の関西電力の電力CO2係数 0.355kg-CO2/kWh を使用して算出

平成 25 年度～平成 29 年度は平成 25 年度の関西電力の電力CO2係数 0.522kg-CO2/kWh を使用して算出

平成 30 年度以降は、平成 29 年度調整後電力 CO2 排出係数を関西電力 0.418kg-CO2/kWh・エネット 0.442kg

-CO2/kWh・大阪ガス 0.389kg-CO2/kWh それぞれ購入先に合わせて算出

(平成 30 年7月から購入先は、関西電力からエネット及び大阪ガスに切り替え)

「目標値変更の考え方とその経緯」

\*3 平成 21 年 4 月よりダンボールの有料売却の為、一般廃棄物排出量からダンボール排出量を削除している。

そのために基準値を変更して、目標値の変更も行っている。

\*4 環境配慮商品(エネファーム・太陽光パネル)の拡販は、平成 28 年度を基準年度として、平成 29 年度より年度ごとに全社で 2 台ずつ(本社・高砂営業所各 1 台ずつ)目標を上方設定。

③ 建設現場での環境目標設定とその実績値

(××%) : 基準値を 100%とした場合の削減%

取組項目		基準値	令和1年度		令和2年度	令和3年度	令和5年度
		平成18年度実績	目標	実績	目標	目標	目標
			CO2排出項目は23%削減		CO2排出項目は24%削減	CO2排出項目は25%削減	CO2排出項目は27%削減
		100%	13%削減		14%削減	15%削減	17%削減
CO2 排出 量 削減	ガソリン使用量 <本社> (L)	44,055	33,922	30,747	33,481	33,041	32,160
	<高砂事業所>	11,136	8,574	6,177	8,463	8,352	8,129
	<計>	55,190	42,496	36,925	41,944	41,392	40,288
	軽油使用量(L) <本社>	10,898	8,391	3,176	8,282	8,173	7,955
	<高砂事業所>	229	176	111	174	171	167
	<計>	11,127	8,568	3,287	8,456	8,345	8,122
	圧縮天然ガス 使用量(m <sup>3</sup> )	*1 基準年度H25年度 *1 1,287	*1 990	0	*1 977	*1 965	*1 939
	<高砂事業所>	-	-	-	-	-	-
	<計>	*1 1,287	*1 990	0	*1 977	*1 965	*1 939
	CO2排出量 (kg)	131,411	101,186	79,528	99,872	98,558	95,930
<高砂事業所>	26,454	20,369	14,618	20,105	19,840	19,311	
<計>	157,865	121,556	94,147	119,977	118,398	115,241	
非開削工法による 掘削土の発生抑制		基準年度H19年度					
<本社>	195	220	307	222	224	227	
(m <sup>3</sup> ) <高砂事業所>	117	132	103	133	134	137	
<計>	312	352	410	355	358	364	

※電気・都市ガス使用量、一般廃棄物排出量、上下水道使用量は、当社工事が実質的に協力会社による施工の為に、計測できません。

「目標値変更の考え方とその経緯」

\*1 天然ガス車は、平成 25 年度以降は建設現場のみでの使用となった為、平成 25 年度を基準年度として目標値を訂正した。

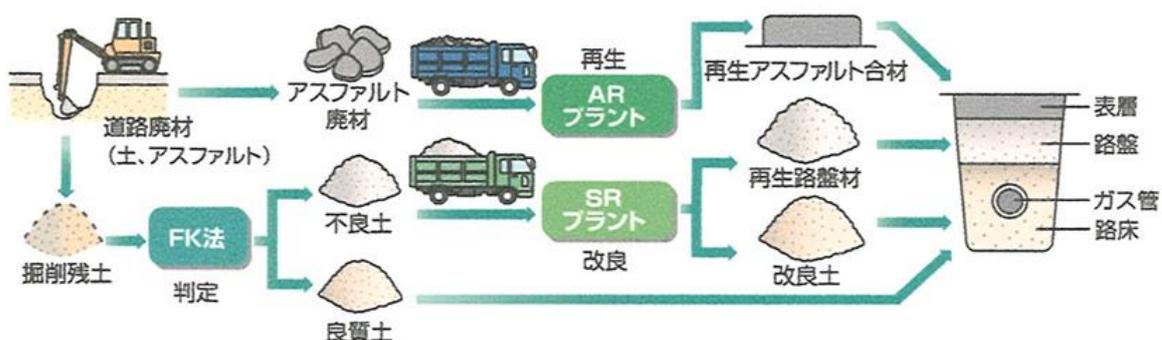
当社全体の主要な環境負荷排出量(CO2総排出量、廃棄物総排出量、総排水量)

項目	単位	平成29年度	平成30年度	令和1年度
CO2排出量	kg-CO2	270,768	233,329	215,251
一般廃棄物	t (トン)	9.47	5.67	6.49
*産業廃棄物(がれき類)	t (トン)	2,035.98	2,087.69	2,069.53
産業廃棄物(がれき類以外)	t (トン)	4.95	7.26	0.00
廃棄物総排出量	t (トン)	2,050.40	2,100.62	2,076.02
総排水量	m <sup>3</sup>	1,625	1,435	1,365

\* ガス配管等を埋設する際の掘削土・アスファルト廃材等のがれき類は、SR(掘削土再生)プラント・AR(アスファルト再生)プラント等で再生され、すべて再利用されている。

■ 道路廃材総合再利用システム

アスファルト廃材と掘削残土に分け、再生アスファルトと再生路盤材・改良土として再利用するシステム



●FK法(ふるい分け簡易判別法)

簡単な治具を用いて掘削土の含水状態や細粒分の含有状態を調べ、埋め戻し可能かを、現場で簡単に判定できる方法。行政地区ごとの承認が必要。

●SRプラント(掘削土再生)

掘削土埋め戻し土(路床材)と路盤材とに改良・再生するプラント。

●ARプラント(アスファルト再生)

アスファルト廃材を舗装用アスファルト合材に再生するプラント。

引用:大阪ガスグループ CSR レポート 2006

## 4. 主要な環境活動計画の内容

### ① 事業所での環境活動計画

<b>1. CO2 排出量の削減</b>	
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 長時間使用しないパソコンの電源をオフにする</li> <li>② 電力使用量の少ない電球を使用する</li> <li>③ 昼休みや不在時の照明の消灯及び空調機器の停止</li> <li>④ トイレは原則として消灯し、使用時にその都度点灯する</li> <li>⑤ エレベーターの利用は極力控え、特に近隣階は階段を使う</li> <li>⑥ エアコン使用時の室温を夏26～28℃、冬20～22℃とする</li> </ul>
都市ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>① エアコン使用時の室温を夏26～28℃、冬20～22℃とする</li> <li>② ガスコンロで湯を沸かす時は必要量の水で沸かし、必要以上に火力を強くしない</li> <li>③ ガスストーブは、こまめに消す</li> <li>④ 沸騰したら火を消し、沸かしたまま放置しない</li> </ul>
車両燃料の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 急発進・急加速・急ブレーキをしない</li> <li>② 無駄な荷物を積まない</li> <li>③ 停車時のアイドリングを減らす</li> <li>④ 車の流れに乗り、無駄な加速・減速をしない</li> </ul>
<b>2. 一般廃棄物排出の削減</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 事務用品等のカタログは返却する</li> <li>② 印刷は印刷プレビューを見て印刷してミスプリントを減らす</li> <li>③ 会議での印刷物による資料を減らす</li> <li>④ A4 サイズで余白が多いときは、コピー・印刷時に A5 にして出力する</li> <li>⑤ 現場での飲食物のゴミは持ち込まない</li> <li>⑥ 資料は可能な限り印刷せず、データファイルのままメール・サーバーを経由して受け渡しを行う</li> <li>⑦ 会社外の私物のゴミは基本的に持ち帰る</li> </ul>	
<b>3. 水使用量の削減</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① シャワー、水道使用時の出しっぱなしに気をつける</li> <li>② トイレ等の水量調整を少なめにする</li> <li>③ 節水用品を導入する</li> </ul>	
<b>4. コピー用紙使用量の削減</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 両面コピーの徹底</li> <li>② ミスコピーの防止</li> <li>③ 裏紙使用の実施(メモ用紙等にも利用)</li> <li>④ 縮小コピーや集約印刷の利用</li> <li>⑤ 資料削減の推進(会議資料の見直し、プロジェクターやメール、回覧、共有ファイルの活用)</li> </ul>	
<b>5. エネファーム、太陽光パネルの販売促進</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 住宅設備関連営業部門において、すべての業務機会を通じてエネファーム、太陽光パネルの販売を促進する。</li> <li>② 提案営業活動を積極的に推し進め、特に戸建注文住宅、分譲住宅の分野においてエネファーム、太陽光パネルの標準化契約を推奨し、環境にやさしい省エネ&amp;エコロジーシステムの販売に邁進する。</li> </ul>	

## ②建設現場での環境活動計画

1. CO2 排出量の削減	
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 電気工具のスイッチをこまめに切る</li> <li>② 新築現場で現場を離れる時はブレーカーの電気を切る</li> </ul>
都市ガス使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 試運転での使用は必要最小限で使用する。</li> </ul>
車両燃料の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 急発進・急加速・急ブレーキをしない</li> <li>② 無駄な荷物を積まない</li> <li>② 路肩等での停車時のアイドリングをしない</li> <li>③ 発電機を使用する時、こまめに電源を切る</li> </ul>
2. 一般廃棄物排出の削減	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 廃棄物は分別を行い捨てる</li> <li>② 廃棄物の中でも、再利用できる物があれば再利用する</li> <li>③ 道工具を丁寧に扱う</li> <li>④ 材料や消耗品等は丁寧に扱い、必要最小限を使う</li> </ul>	
3. 水使用量の削減	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 現場で水道を使用する時は、こまめに蛇口を止める</li> <li>② 車や道工具をよごさない工夫をする</li> </ul>	
4. 低騒音・低振動の工具使用の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 機械装置・重機・工具は低騒音・低振動の物を使用する</li> <li>② 工事現場周辺住民への工事の目的・場所・期間・時間・内容等について周知を徹底する</li> <li>③ 環境の保全と創造に関する条例(平成7年兵庫県条例第28号)第60条第1項の規定を遵守する</li> </ul>	





	責 任	権 限
代 表 者	環境方針を文章で定める。 環境管理責任者に委任する。	全体の取組み状況を評価し、全般的な見直しを指示する。
環境管理責任者	環境方針、環境目標及び環境活動計画案を作り、代表者の承認を得て、朝礼や説明会で全社員に周知徹底する。 代表者へ報告する。	全体の取組み状況を評価し、全般的な見直しを、代表者の指示に基づき実施する。 問題がある場合は、その是正を行う。 事務局への活動指示・アドバイスをを行う。
事 務 局	4ヶ月毎のチェックを実施する。 必要な文章を作成し、整理する。 環境活動レポートを作成する。	環境上の緊急事態を想定し、その対応を定め、定期的な訓練を行う。  エコアクション21を適切に実行するため、説明会を行う。
環境推進責任者	本社と高砂の各事業所で事務局の活動を推進する。	本社と高砂の各事業所を管理する。
各 所 属 長	各部署で取組みを指導する。	各部署を管理する。
推 進 担 当 者	各部署の取組みをチェック、確認し是正。	各部署の環境活動の推進。
建 設 現 場 責 任 者	各建設現場の取組みを指導する。	各建設現場の管理。
現 場 監 督	各建設現場の取組みをチェック、確認し是正。	各建設現場の環境活動の推進。
従 業 員	各目標達成のため実施事項を実行する。	

## 6. 環境活動計画の取組結果と評価及び次年度の取組

### ① 事業所での取組結果と評価及び次年度の取組

	取組結果	評価及び次年度の取組
電気使用量の削減	<b>全社</b> <span style="float: right;">達成度 145%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 年間対目標比 約 68.8% 53,544kwh 削減 年間対前年比 約 98.8% 1,336kwh 削減	[評価: ○ ] 今年度も、削減できた。これまでの本社社屋のLED照明への全面改修、設備導入・更新と社員の節電意識の向上、次年度も昼休み消灯・ノー残業デー等の活動を行い、さらに削減を目指す。
	<b>本社</b> <span style="float: right;">達成度 151%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 年間対目標比 約 65.9% 46,185kwh 削減 年間対前年比 約 96.5% 3,235kwh 削減	[評価: ○ ] 今年度も、削減できた。これまでの本社社屋のLED照明への全面改修、ガス空調機交換による電気の省エネ、トイレの電球・換気扇に感知式の採用や、昼休みの消灯、電球の間引き、自販機の省エネ化等の成果も出ている。来年度も、さらに削減できるように活動する。
	<b>高砂営業所</b> <span style="float: right;">達成度 125%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。前年比より、1,899kwh増加となった。 年間対目標比 約 79.5% 7,358kwh 削減 年間対前年比 約 107.1% 1,899kwh 超過	[評価: △ ] 前々々年度・前年度に、古くなった GHP を各年に1台ずつ利用を停止し、電気の空調を導入しましたが、電気使用量が大きく増えることなく活動出来ている。
都市ガス使用量の削減	<b>全社</b> <span style="float: right;">達成度 138%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 年間対目標比 約 72.2% 6,579 m <sup>3</sup> 削減 年間対前年比 約 96.9% 543 m <sup>3</sup> 削減	[評価: ○ ] 本社のガス空調機器を更新以降、目標を達成出来ている。クールビズ・ウォームビズの運用期間拡大、冷房と扇風機の平行使用などの対策を続け、ガス空調機器の効率・適性利用を行いたい。
	<b>本社</b> <span style="float: right;">達成度 131%</span> 年間目標を達成した。月単位では2月のみ目標を超過した。過去の年度比でも過去最少となった。 年間対目標比 約 76.0% 5,134 m <sup>3</sup> 削減 年間対前年比 約 96.7% 549 m <sup>3</sup> 削減	[評価: ○ ] 本社のガス空調機器の更新以降、順調に目標より削減している。来年度は、ガス空調機器の効率・適性利用を行い、平成30年度より削減したい。
	<b>高砂営業所</b> <span style="float: right;">達成度 274%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少の昨年に続く2番目の少なさとなった。 年間対目標比 約 36.4% 1,445 m <sup>3</sup> 削減 年間対前年比 約 100.7% 6 m <sup>3</sup> 超過	[評価: △ ] 前々々年度・前年度に、古くなった GHP を各年に1台ずつ利用を停止したこともあり、大きく目標より削減出来た。来年度は、しっかりと活動し目標を達成して、平成30年度より削減したい。

	取組結果	評価及び次年度の取組
ガソリン使用量の削減	<b>全社</b> <span style="color: green;">達成度 266%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 <span style="color: green;">年間対目標比 約 37.5%</span> <span style="color: green;">23,868L 削減</span> <span style="color: green;">年間対前年比 約 84.5%</span> <span style="color: green;">2,623L 削減</span>	[評価: ○ ] 車両の積載物、タイヤの空気圧点検を月初に実施している。内部監査では、年間の燃費率から運転状況の確認を行った。また、エコカーであるハイブリッド車を 9 台導入している。今年度も、環境活動に加えて、買い換え時の低燃費車導入により、車両燃料の消費量を削減したい。
	<b>本社</b> <span style="color: green;">達成度 266%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 <span style="color: green;">年間対目標比 約 37.5%</span> <span style="color: green;">23,868L 削減</span> <span style="color: green;">年間対前年比 約 84.5%</span> <span style="color: green;">2,623L 削減</span>	[評価: ○ ] 同上
	<b>高砂営業所</b> <span style="color: green;">達成度 - %</span> 平成 30 年度より組織変更により事業所用車両高砂営業所から本社へ移動し、それに伴い目標数値も、本社へ移動しました。	[評価: - ]
一般廃棄物排出量の削減	<b>全社</b> <span style="color: green;">達成度 163%</span> 年間目標を達成した。月単位では 4 月・8 月以外は目標を達成した。過去の年度比でも過去最少の昨年に続く 2 番目の少なさとなった。 <span style="color: green;">年間対目標比 約 61.2%</span> <span style="color: green;">4,103kg 削減</span> <span style="color: red;">年間対前年比 約 114.3%</span> <span style="color: red;">817kg 超過</span>	[評価: △ ] 平成 30 年度より雑紙・シュレーダー後の古紙の再利用を導入して大きく削減出来た。タブレット端末普及等により、OA 用紙使用量も減少していることから、一般廃棄物も削減しやすい状況ではないかと考えられる。また、年度ごとに廃棄に偏りが出ないように、定期的に書類廃棄をすることを部長会でアナウンスを行った。
	<b>本社</b> <span style="color: green;">達成度 133%</span> 年間目標を達成した。月単位では 4 月・8 月・11 月は目標を超過した。 <span style="color: green;">年間対目標比 約 74.9%</span> <span style="color: green;">2,076kg 削減</span> <span style="color: red;">年間対前年比 約 116.7%</span> <span style="color: red;">890kg 超過</span>	[評価: △ ] 令和 1 年度は、維持待機室・工員更衣室の整理整頓を行い、一般廃棄物の増加となった。平成 30 年度より雑紙・シュレーダー後の古紙の再利用を導入して大きく削減出来た。これまで、改善してきたダンボール・新聞紙・カタログの売却も一定の効果がある。
	<b>高砂営業所</b> <span style="color: green;">達成度 634%</span> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 <span style="color: green;">年間対目標比 約 15.7%</span> <span style="color: green;">1,577kg 削減</span> <span style="color: green;">年間対前年比 約 80.1%</span> <span style="color: green;">73kg 削減</span>	[評価: ○ ] 平成 30 年度より雑紙・シュレーダー後の古紙の再利用を導入して大きく削減出来た。今後も、環境活動の取組をしっかり行い継続的な削減努力を実施して、目標の達成並びに前年度より削減する。

	取組結果	評価及び次年度の取組
上下水道使用量の削減	<b>全社</b> 達成度 163% 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 年間対目標比 約 61.0% 871 m <sup>3</sup> 削減 年間対前年比 約 95.1% 70 m <sup>3</sup> 削減	[評価: ○] 引き続き、洗濯機の使用用途の制限、トイレの手ふきタオルの削減による洗濯回数の削減やシャワーの使用の徹底をし、節水を続ける。
	<b>本社</b> 達成度 154% 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 年間対目標比 約 64.5% 653 m <sup>3</sup> 削減 年間対前年比 約 94.6% 67 m <sup>3</sup> 削減	[評価: ○] 本社では、主要な水道の蛇口を感知式にして設備面からも節水に努めている。合わせて環境活動の取組を継続して、使用量の削減を行う。
	<b>高砂営業所</b> 達成度 223% 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。過去の年度比でも過去最少となった。 年間対目標比 約 44.8% 218 m <sup>3</sup> 削減 年間対前年比 約 98.3% 3 m <sup>3</sup> 削減	[評価: ○] 平成 30 年 3 月の組織変更により人員が、25%減少した影響もあるが、昨年度に続き過去最少の使用量となった。環境活動の取組を継続して、使用量の削減を行う。
OA紙使用量の削減	<b>全社</b> 達成度 116% 年間目標を達成した。月単位でも 4 月・9 月・11 月以外は目標を達成した。前年比では、増加した。 年間対目標比 約 85.7% 525kg 削減 年間対前年比 約 89.4% 375kg 削減	[評価: ○] 維持管理部で、タブレット端末を利用して、記録・決裁・報告するペーパーレス化が削減に繋がった。ミスプリントの削減、縮小コピー、両面印刷、裏紙使用を続けて、目標達成へ向けて使用量の削減をしたい。
	<b>本社</b> 達成度 108% 年間目標を達成した。月単位でも 5 月・8 月・9 月・11 月以外は目標を達成した前年比では、増加した。 年間対目標比 約 91.8% 235kg削減 年間対前年比 約 88.5% 343kg削減	[評価: ○] 組織変更により、内管部門が本社に集約されて、本社の OA 用紙使用量の増加につながった。年間目標に対し、75kgの超過だったので、ミスプリントの削減、縮小コピー、両面印刷、裏紙使用を続けて、目標達成へ向けて使用量の削減をしたい。
	<b>高砂営業所</b> 達成度 156% 年間目標を達成した。月単位でも 7 月・12 月・1 月以外は目標を達成した。前年比でも、削減した。 年間対目標比 約 63.8% 290kg 削減 年間対前年比 約 94.2% 31kg 削減	[評価: ○] 組織変更により、内管部門が本社に集約されて、高砂営業所の OA 用紙使用量減少につながった。年間目標に対し、75kgの超過だったので、ミスプリントの削減、縮小コピー、両面印刷、裏紙使用を積極的に利用して、目標達成へ向けて使用量の削減をしたい。

	取組結果	評価及び次年度の取組
エネファーム、太陽光パネルの拡販	<b>全社</b> ・エネファーム <b>達成度 48%</b> 年間目標を達成出来なかった。月単位で4～11月・2～3月以外は達成した。前年比でも、減少した。 <b>年間対目標比 約 48.7% 20台不足</b> <b>年間対前年比 約 46.3% 22台減少</b> ・太陽光パネル <b>達成度 60%</b> 年間目標を達成出来なかった。月単位で5～7月・9月・11～1月・3月は達成出来なかった。前年比でも、減少した。 <b>年間対目標比 約 60.0% 16戸不足</b> <b>年間対前年比 約 70.5% 10戸減少</b>	[評価: × ] エネファームは 20 台目標に届かなかった。また、前年より 22 台減少した。来年度も販促を行い、さらに販売台数を伸ばしたい。 太陽光パネルは、16 戸目標に届かなかった。また、前年より 10 戸減少した。来年度も販促を行い、さらに販売台数を伸ばしたい。
	<b>本社</b> ・エネファーム <b>達成度 240%</b> 年間目標を達成した。 月単位でも 4 月以外は達成した。前年比では、減少した。 <b>年間対目標比 約 240.0% 7台増加</b> <b>年間対前年比 約 63.1% 7台減少</b> ・太陽光パネル <b>達成度 228%</b> 年間目標を達成した。 月単位でも 5 月・7 月以外は達成した。前年比は、増加した。 <b>年間対目標比 約 228.5% 9戸増加</b> <b>年間対前年比 約 145.4% 5戸増加</b>	[評価: △ ] エネファームは 7 台目標を超えた。しかし、前年より 7 台減少した。来年度も販促を行い、さらに販売台数を伸ばしたい。 太陽光パネルは、9 戸目標を超えた。また、前年より 5 戸増加した。来年度も販促を行い、さらに販売台数を伸ばしたい。
	<b>高砂営業所</b> ・エネファーム <b>達成度 20%</b> 年間目標を達成出来なかった。月単位でも 5～3 月で目標を達成出来なかった。前年比でも、減少した。 <b>年間対目標比 約 20.5% 27台不足</b> <b>年間対前年比 約 31.8% 15台減少</b> ・太陽光パネル <b>達成度 24%</b> 年間目標を達成出来なかった。月単位でも 5～7月・9～1月・3月で目標を達成出来なかった。前年比でも減少した。 <b>年間対目標比 約 24.2% 25戸不足</b> <b>年間対前年比 約 34.7% 15戸減少</b>	[評価: × ] エネファームは 27 台目標に届かなかった。また、前年より 15 台減少した。来年度は、販促を行い、目標に届くように販売台数を伸ばしたい。 太陽光パネルは、25 戸目標に届かなかった。また、前年より 15 戸減少した。来年度は、販促を行い、目標に届くように販売台数を伸ばしたい。

② 建設現場での取組結果と評価及び次年度の取組

	取組結果	評価及び次年度の取組
ガソリン、軽油、 圧縮天然ガス使 用量の削減	<b>全社</b> ・ガソリン <b>達成度 115%</b> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。前年比でも、削減した。 <b>年間対目標比 約 86.8%</b> 5,571L 削減 <b>年間対前年比 約 89.4%</b> 4,332L 削減 ・軽油 <b>達成度 260%</b> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。前年比でも、削減した。 <b>年間対目標比 約 38.3%</b> 5,281L 削減 <b>年間対前年比 約 94.7%</b> 182L 削減 ・圧縮天然ガス(本社のみ) <b>達成度 1%</b> 使用しませんでした。 <b>年間対目標比 約 0%</b> 990 m <sup>3</sup> 削減 <b>年間対前年比 約 0%</b> 0 m <sup>3</sup> 削減	[評価: ○ ] ガソリンは、日々の取組に加えて、車両の入替えによる燃費向上により目標・前年度をともに上回った。このまま、活動計画を実施して、目標を達成する。車両の積載物、タイヤの空気圧点検を月初に実施している。 軽油は、過年度に渡り、軽油車両が、ガソリン車両へ転換されてきた。車両の積載物、タイヤの空気圧点検を月初に実施している。また、発電機も電源をこまめに切るようにして目標を達成する。 天然ガス車は、今年度は無くなりましたので、目標達成としている。
	<b>本社</b> ・ガソリン <b>達成度 110%</b> 年間目標を達成した。月単位でも 4 月・1～2 月以外は目標を達成した。また、前年比でも、削減した。 <b>年間対目標比 約 90.6%</b> 3,175L 削減 <b>年間対前年比 約 87.4%</b> 4,398L 削減 ・軽油 <b>達成度 264%</b> 年間及び月単位でも、年間通して目標を達成した。前年比では、増加した。 <b>年間対目標比 約 37.8%</b> 5,215L 削減 <b>年間対前年比 約 91.5%</b> 293L 削減	[評価: ○ ] ガソリンは、日々の取組に加えて、車両の入替えによる燃費向上により目標・前年度より削減した。車両の積載物、タイヤの空気圧点検を月初に実施している。このまま、活動計画を実施して、目標を達成する。 軽油は、過年度に渡り、軽油車両が、ガソリン車両へ転換された。車両の積載物、タイヤの空気圧点検を月初に実施している。また、発電機も電源をこまめに切るようにして目標を達成する。
	<b>高砂営業所</b> ・ガソリン <b>達成度 138%</b> 年間目標を達成した。月単位でも 8 月以外は目標を達成した。しかし、前年比では 65L 増加した。 <b>年間対目標比 約 72.0%</b> 2,397L 削減 <b>年間対前年比 約 101.0%</b> 65L 増加 ・軽油 <b>達成度 158%</b> 使用しませんでした。 <b>年間対目標比 約 63%</b> 65L 削減 <b>年間対前年比 約 1%</b> 111L 増加	[評価: △ ] 高砂営業所は、前年より 1%増加しましたが、長期的な期間で見ると削減傾向である。 活動計画をしっかりと行い来年度は目標を達成し、前年でも、削減する。 3 月より高砂で使用する車両に、軽油使用の車両が本社より移動しました。実態と目標が乖離するので、本社より目標の移動も検討したい。

	取組結果	評価及び次年度の取組
非開削工法による掘削土の発生抑制	<b>全社</b> <span style="color: green;">達成度 116%</span> 年間目標を達成出来た。月単位では8～9月・11～12月・2～3月は目標を達成出来なかった。前年より357 m <sup>3</sup> 発生を抑制できた。 <span style="color: green;">年間対目標比 約 116.4%</span> <span style="color: green;">58 m<sup>3</sup>発生抑制</span> <span style="color: green;">年間対前年比 約 773.5%</span> <span style="color: green;">357 m<sup>3</sup>発生抑制</span>	[評価: ○] 今年度は、非開削工法対象工事の請負受注の増加の為、目標を達成出来た。目標は、このままで非開削工法の現場の受注活動を推進する。
	<b>本社</b> <span style="color: green;">達成度 139%</span> 年間目標を達成出来た。月単位では6月・8～9月・12月・2～3月は目標を達成出来なかった。前年より357 m <sup>3</sup> 発生を抑制できた。 <span style="color: green;">年間対目標比 約 139.5%</span> <span style="color: green;">87 m<sup>3</sup>発生抑制</span> <span style="color: green;">年間対前年比 約 579.2%</span> <span style="color: green;">254 m<sup>3</sup>発生抑制</span>	[評価: ○] 非開削工法対象工事の請負受注の増加の為、目標を達成出来た。目標は、このままで非開削工法の現場の受注活動を推進する。
	<b>高砂営業所</b> <span style="color: red;">達成度 78%</span> 今年度は、年間目標を達成出来なかった。昨年度の0 m <sup>3</sup> からは、大きく伸びた。 <span style="color: red;">年間対目標比 約 78%</span> <span style="color: red;">29 m<sup>3</sup>不足</span> <span style="color: green;">年間対前年比 約 ー%</span> <span style="color: green;">103 m<sup>3</sup>発生抑制</span>	[評価: ×] 非開削工法対象工事の請負受注の減少の為、目標を達成出来なかった。目標は、このままで非開削工法の現場の受注活動を推進する。
低騒音・低振動の工具使用の徹底	<b>本社・高砂営業所</b> ともに、機械装置・重機・工具は、低騒音型・低振動型の物のみを使用している。 <span style="color: green;">達成度 100%</span>	[評価: ○] 同取り組みは、所有・購入する工具が、低騒音・低振動の設計であり、目標の達成が確実である為、令和元年度で終了する。

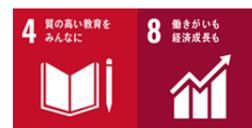


※非開削工法の現場(始末端部のみ掘削し、道路下を水平ボーリングしてポリエチレン管等を引込む工法)



- 非開削工法のメリット(従来の開削工法に比べて)
  - ・掘削土やアスファルト殻の排出が格段に削減
  - ・工期短縮やコストダウンが図られる
  - ・周辺地域の住環境への悪影響の低減(騒音・道路交通)
- 非開削工法の問題点
  - ・地中埋設物の輻輳した道路では適用困難
  - ・非開削工法適用可能な工事の受注は、発注者に依存

## 7. 事業所及び建設現場での環境関連法規等の遵守状況の確認並びに違反・訴訟等の有無



### (1) 主な環境関連法規等の遵守状況の確認

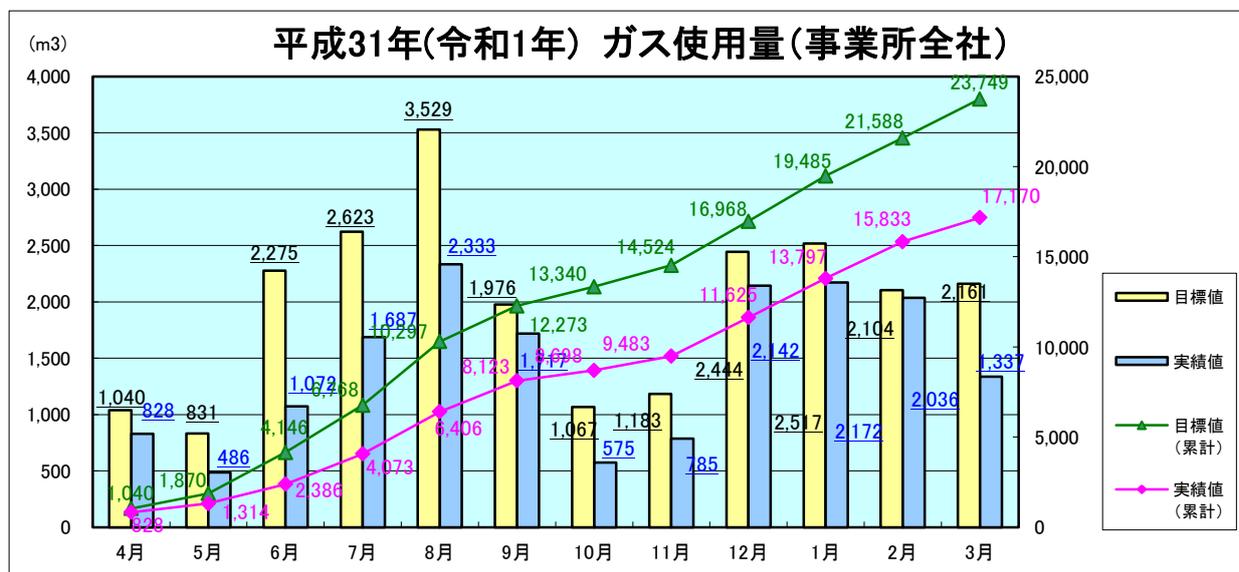
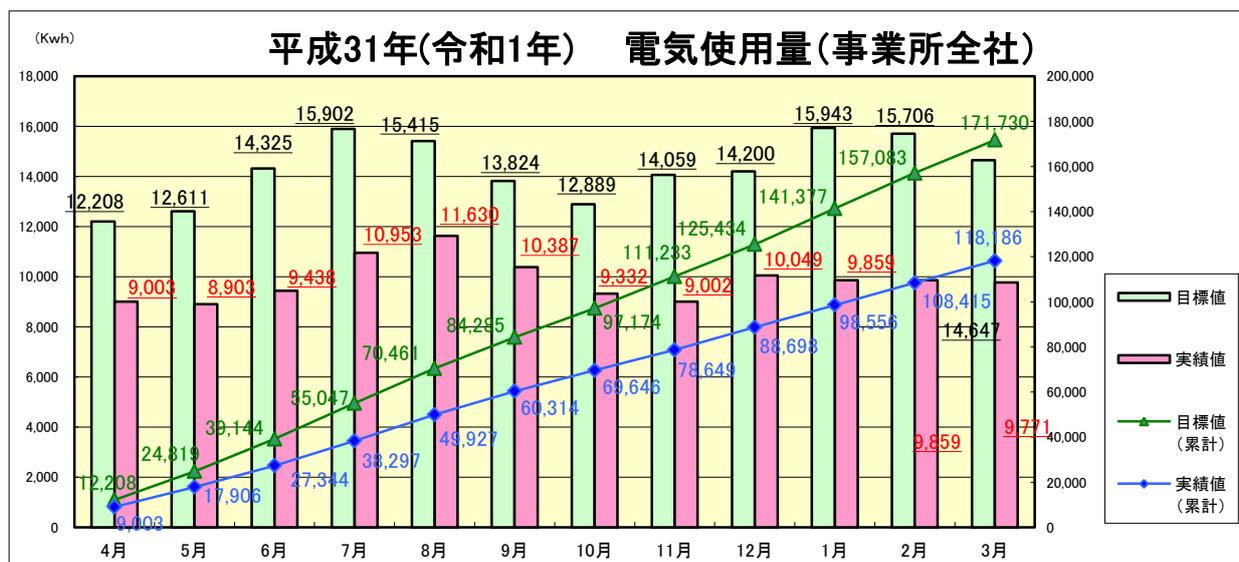
法規制の名称	該当内容	遵守の適・否
地球温暖化対策の推進に関する法律	CO2 の排出削減、エコアクション21の構築・運用	◎・否
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)	マニフェスト管理、交付状況の知事報告、廃棄物委託契約書の管理、許可証の確認、掲示板の設置(水銀仕様製品産廃物含む)、その他産廃保管基準の順守	◎・否
騒音規制法	現場での適正な工事(騒音対策工具の使用等)	◎・否
振動規制法	現場での適正な工事(振動対策工具の使用等)	◎・否
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法	自動車使用管理実績報告書の提出・車検ごとに規制車輛の廃車	◎・否
(兵庫県)環境の保全と創造に関する条例	騒音規制法に関わる施設の届出(横出し規制)	◎・否
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	回収・引取証明書の確認 業務用空調機器の簡易点検(3カ月に1回)と定期点検の実施・記録の保存(機器廃棄後3年間)	◎・否
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	管内面ライニング剤の使用量の管理	◎・否
労働安全衛生法	化学物質(表示義務対象物・通知対象物)に対するリスクアセスメントの実施と従業員への結果の周知	◎・否
毒物及び劇物取締法	管内面ライニング剤(劇物含む)の遵守管理(劇物表示、保管庫の施錠等)	◎・否
資源の有効な利用の促進に関する法律(改正リサイクル法)	パソコン(リース物件以外)の廃棄時、メーカーへ返却	◎・否
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	『エアコン』『テレビ』『電気冷蔵庫・冷凍庫』『電気洗濯機』適正処理、家電リサイクル券の確認	◎・否
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	掘削土、アスファルトの再生利用、金属屑の分別リサイクル、PE管リサイクル	◎・否
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	グリーン商品の購入	◎・否
消防法	防火管理者の選任、消火設備等の設置及び維持	◎・否

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はなかった。

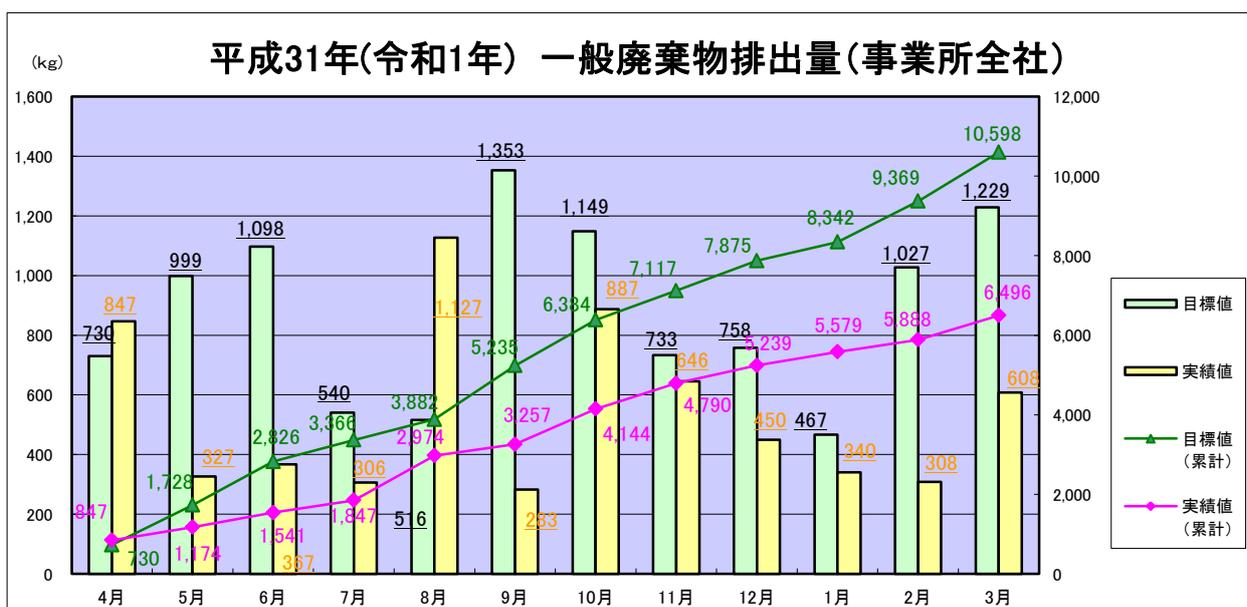
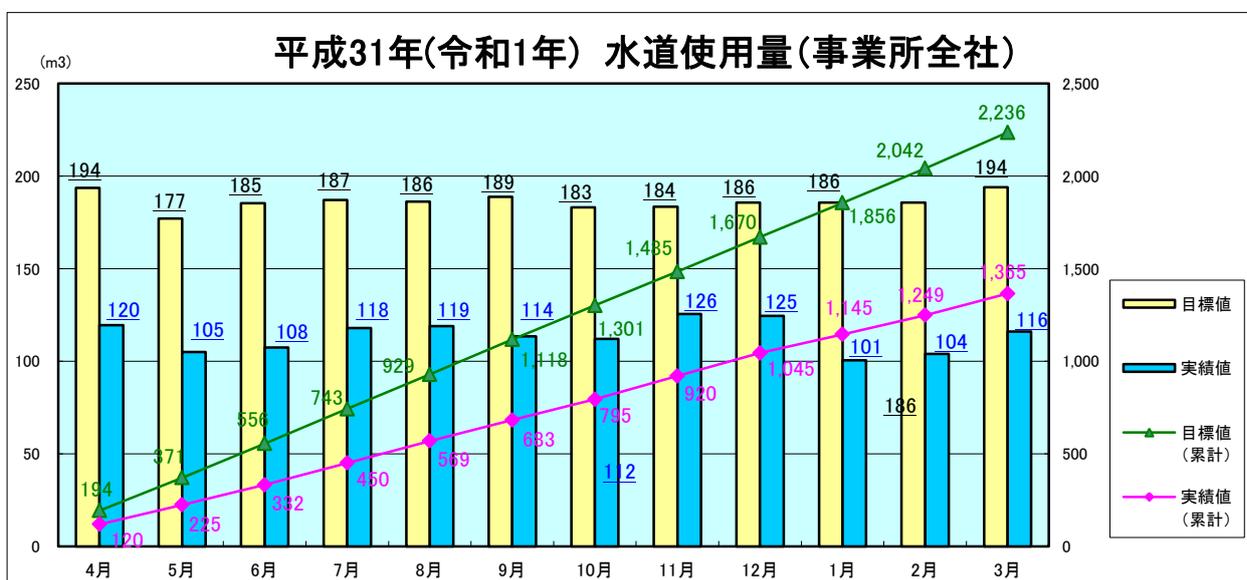
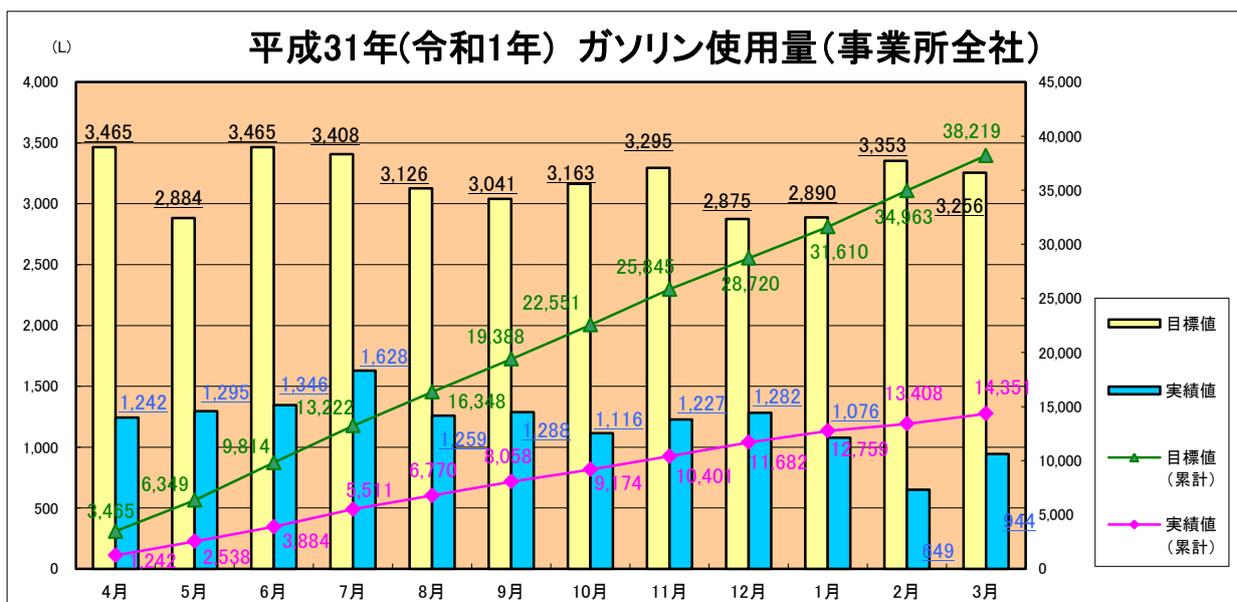
(2) 違反・訴訟等の有無

自社における環境関連法規への違反はありません。又、関係機関からの違反等の指導が過去3年間ありません。訴訟を受けたことも一切ありません。

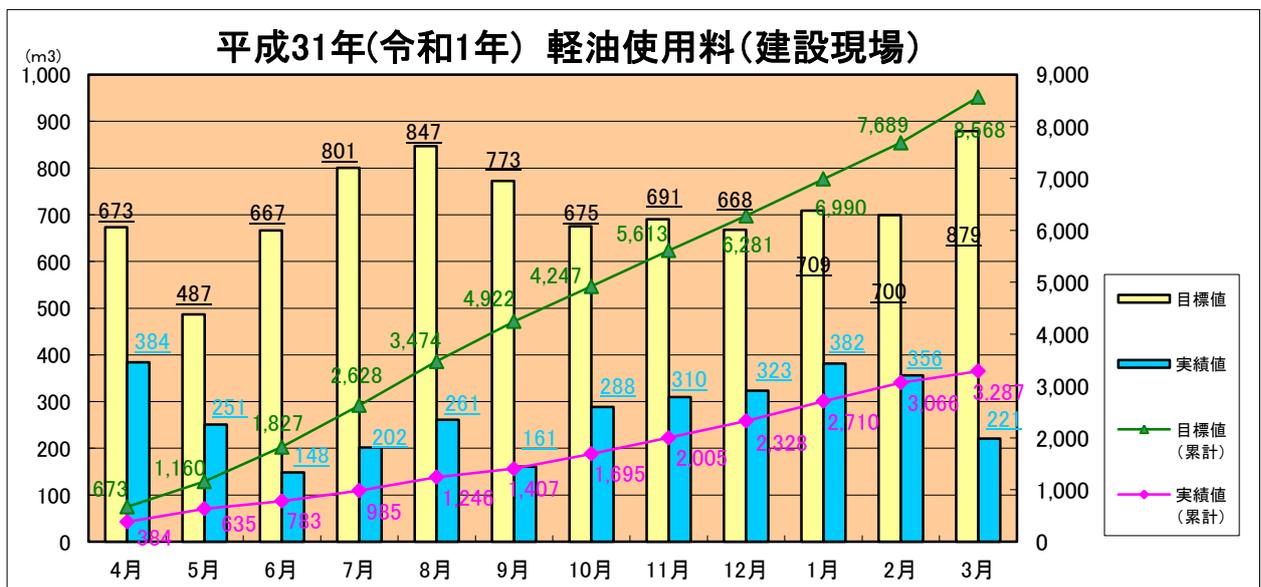
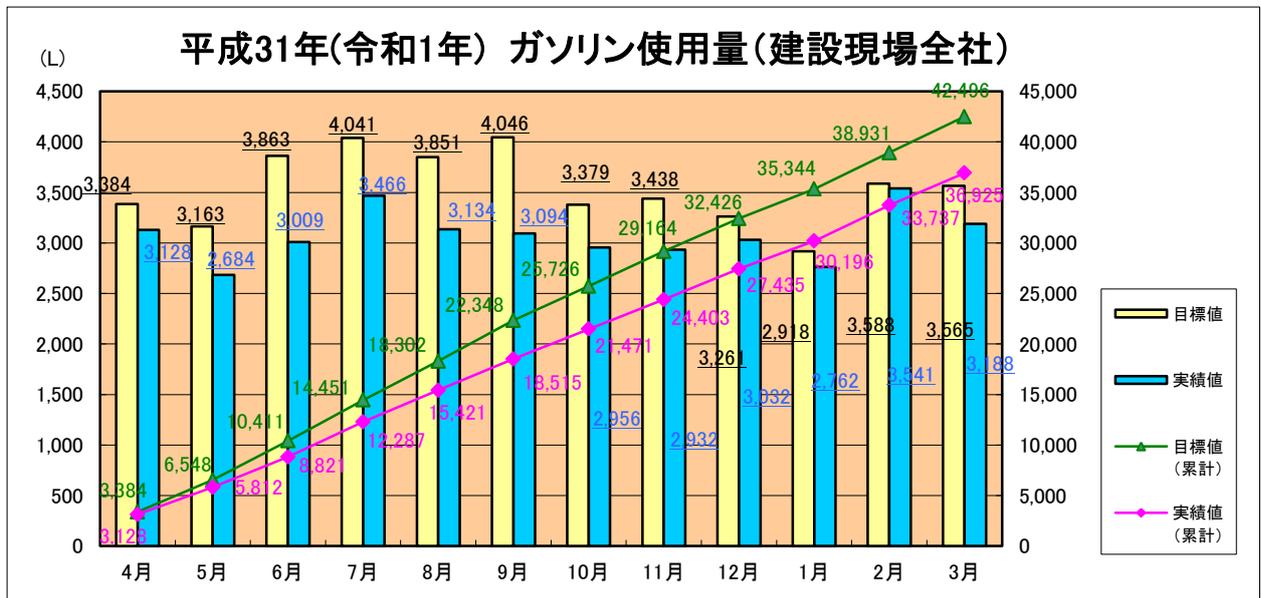
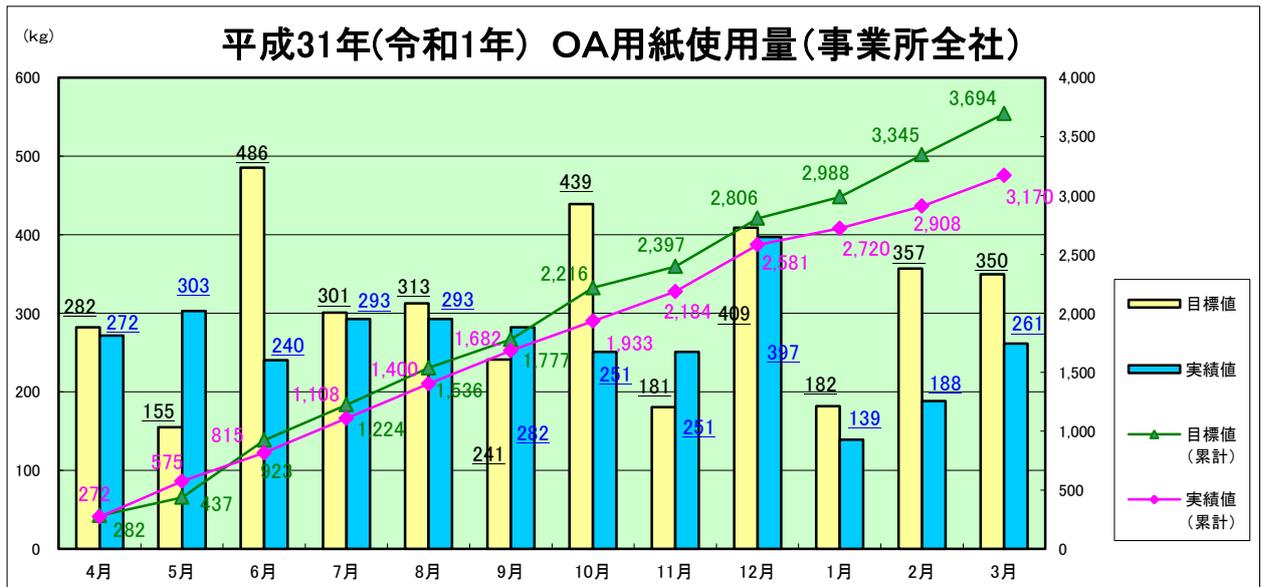
## 8. 主要環境負荷項目における今年度月別の目標値と実績値の推移



※ 目標値は平成18年度より23%削減した値である。

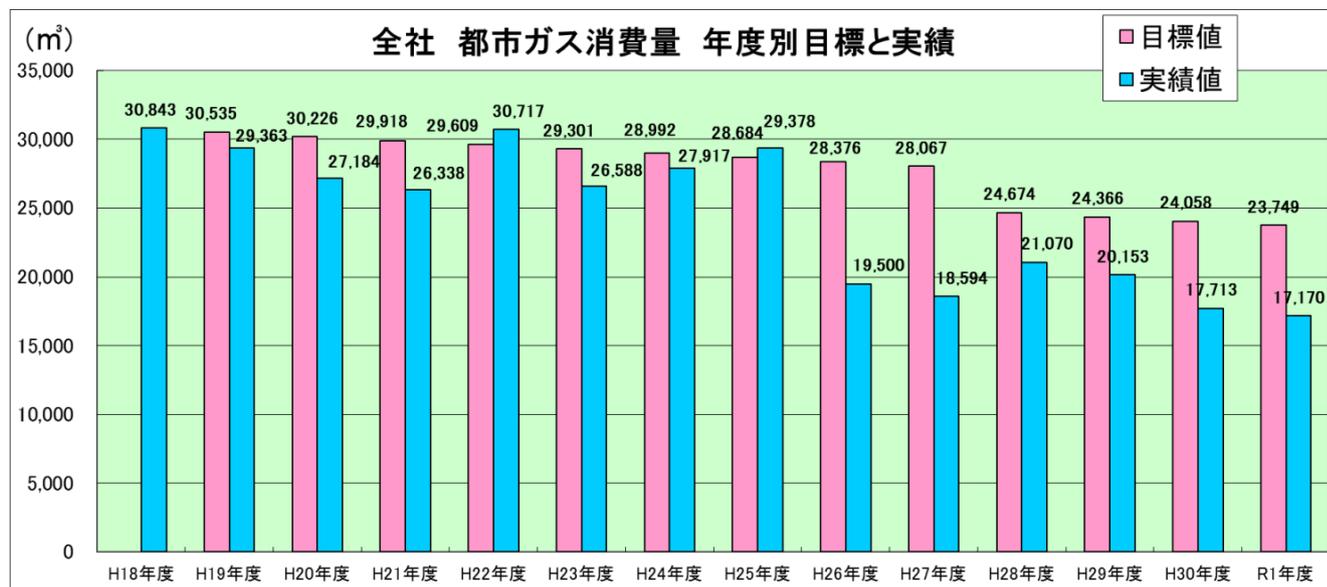
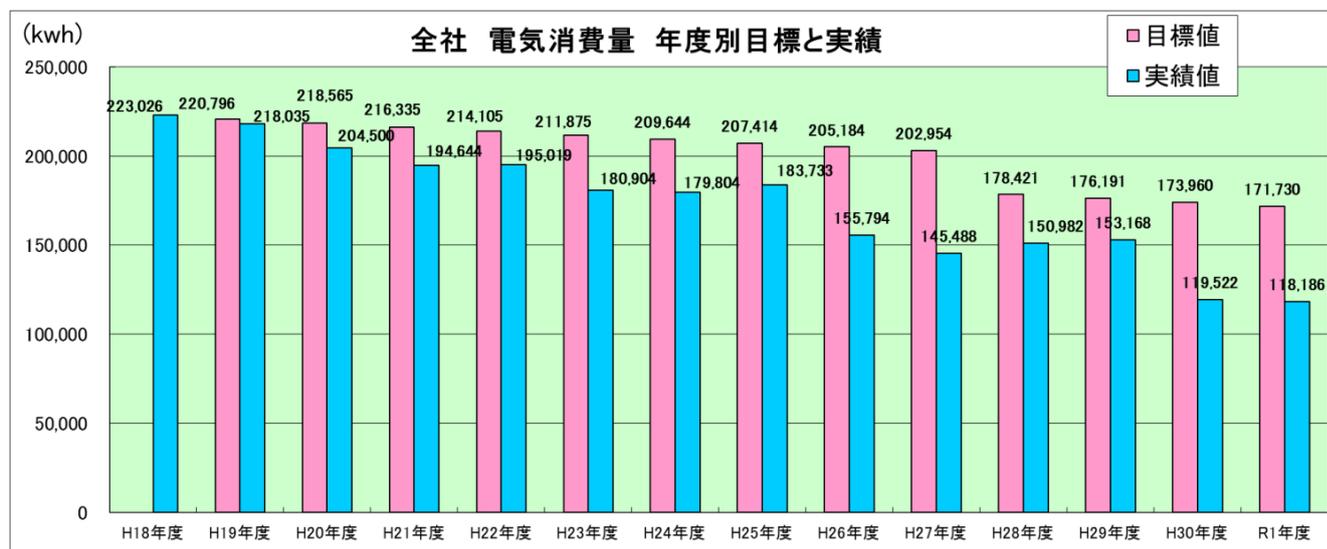


※ 目標値は平成 18 年度より 23%削減した値である。(一般廃棄物の目標値は、本社は平成 18 年度より 10%削減した値、高砂営業所は平成 20 年度より 13%削減した値である。)

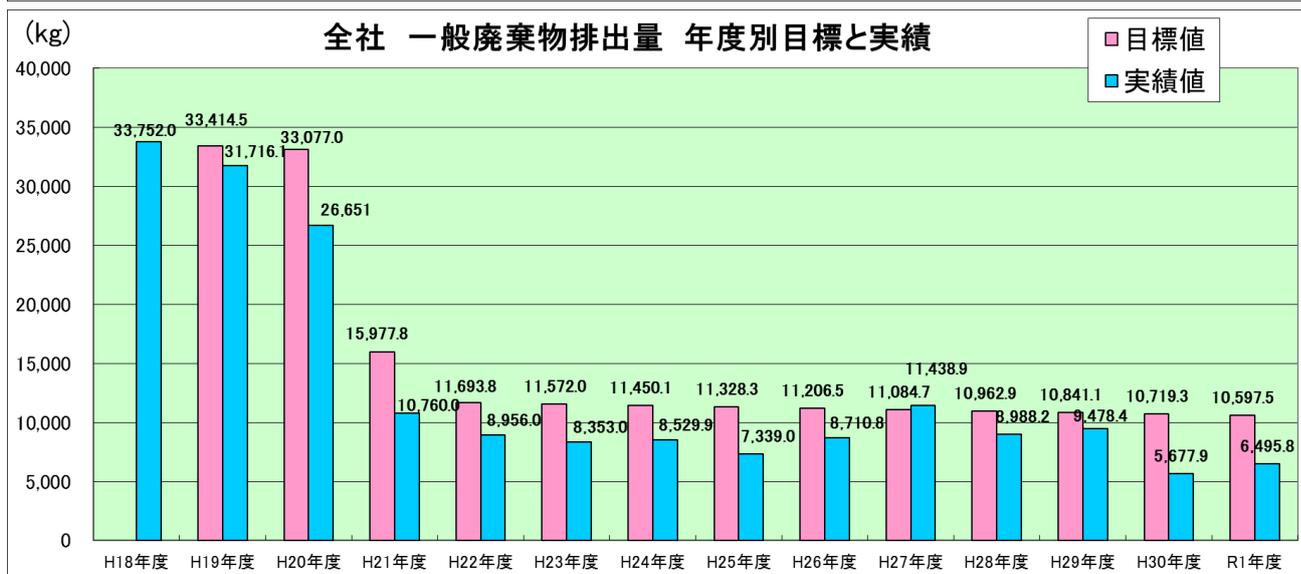
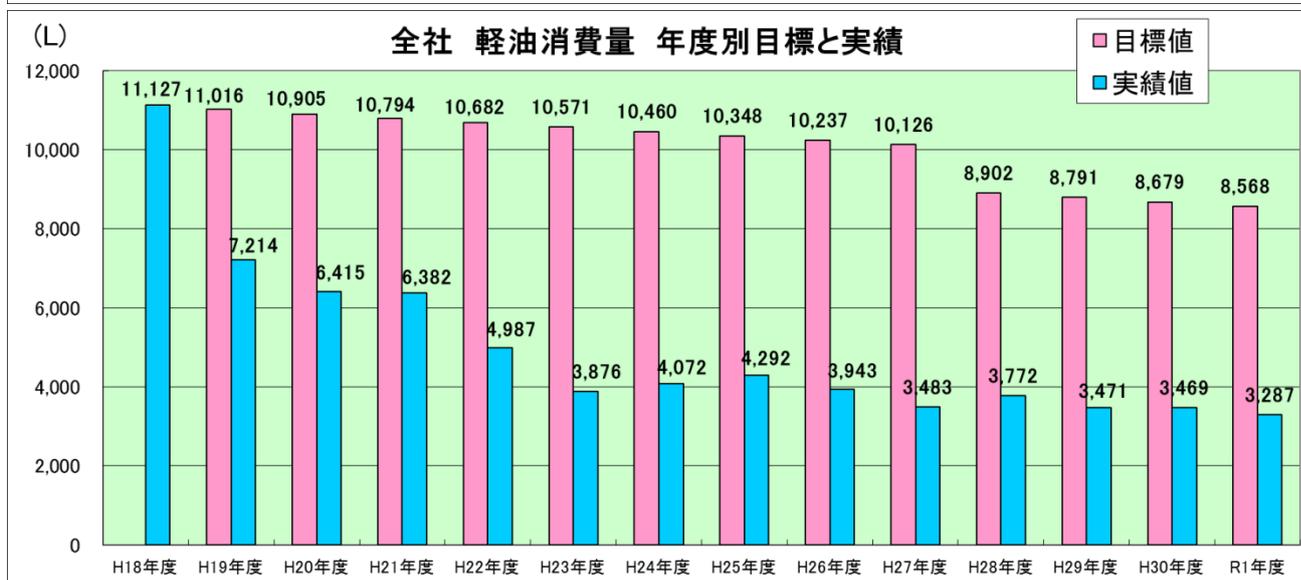
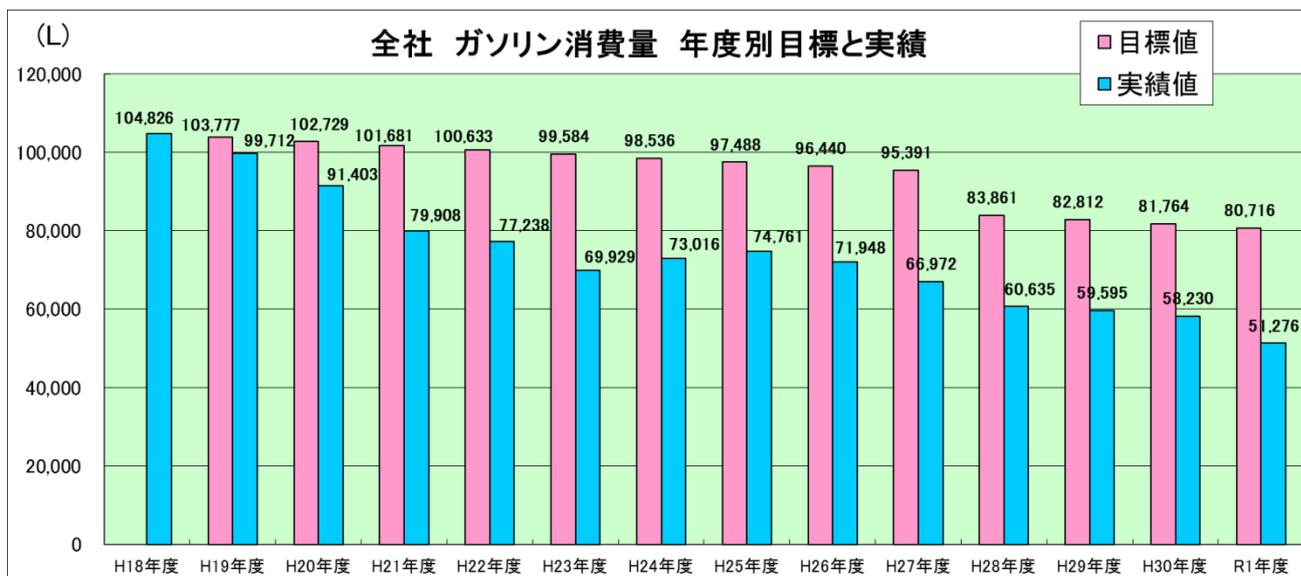


※ 目標値は平成18年度より23%削減した値である。

## 9. 主要環境負荷項目における年度別の目標値と実績値の推移

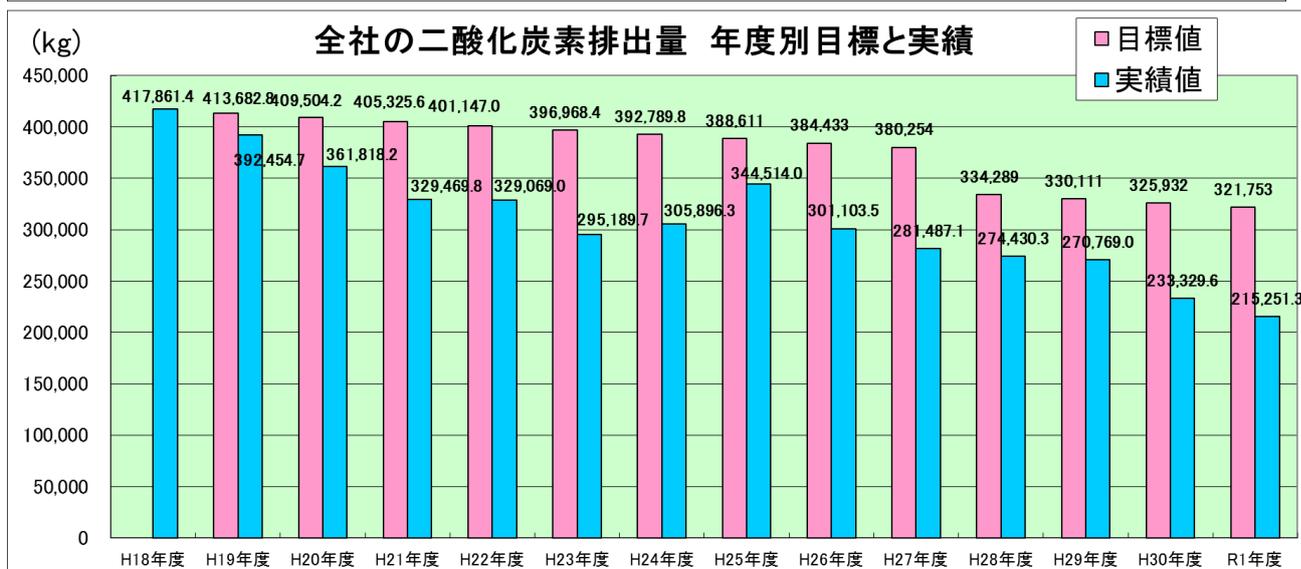
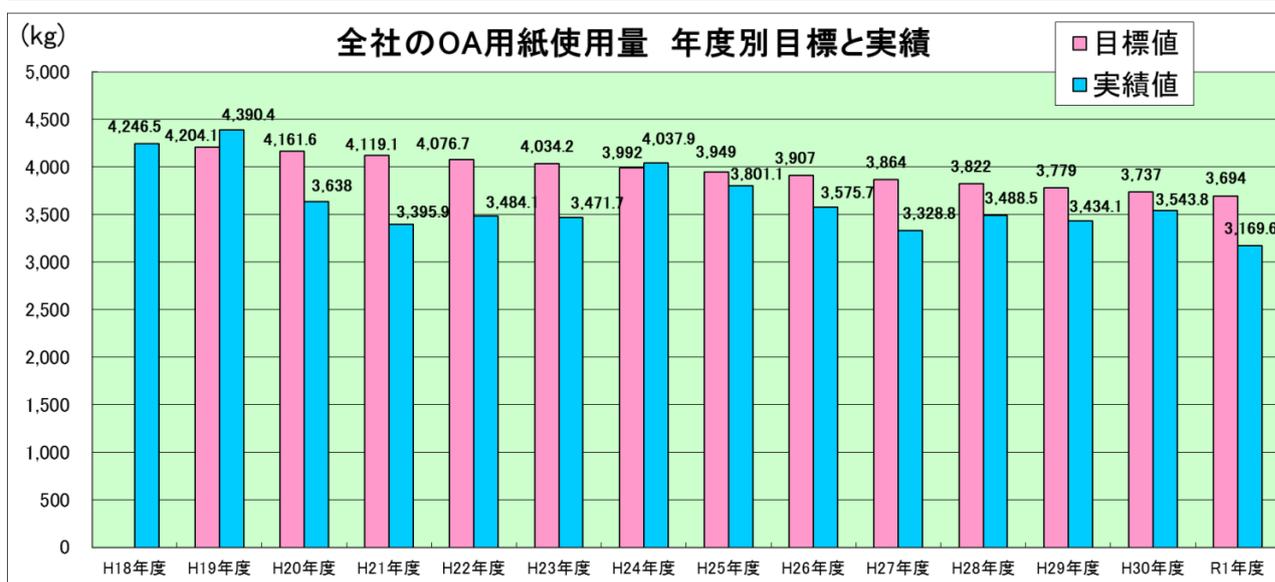
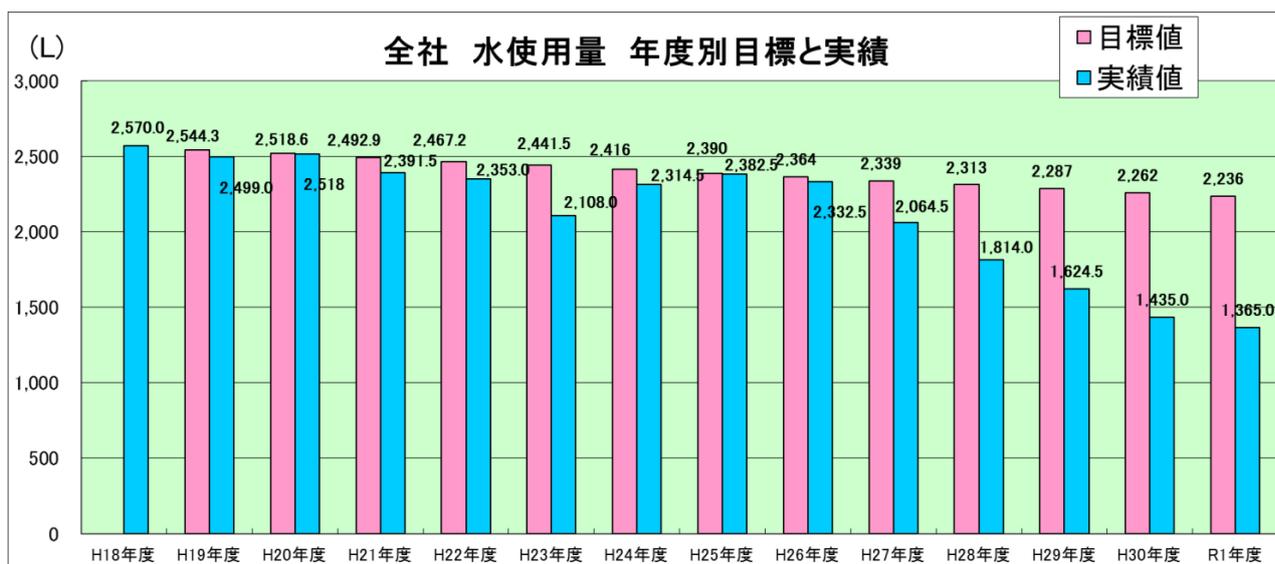


※ 目標値は平成 18 年度を基準値として毎年度 1%削減した値である。CO<sub>2</sub> 排出項目は、平成 28 年度に目標を 10%上方修正している。



※ 目標値は平成 18 年度を基準値として毎年度 1%削減した値である。CO2 排出項目は、平成 28 年度に目標を 10%上方修正している。

(一般廃棄物は、平成 21 年度よりダンボールが有価物となり除外、高砂営業所で平成 22 年度より平成 20 年度に基準値を変更)



目標値並びに平成 24 年度以前は、平成 20 年度関西電力の電力CO2係数 0.355kg-CO2/kWh を使用して算出、平成 25 年度以降実績値は、平成 25 年度関西電力の電力CO2係数 0.522kg-CO2/kWh を使用して算出 平成 30 年度以降は、平成 29 年度調整後電力 CO2 排出係数の関西電力 0.418kg-CO2/kWh・エネット 0.442kg-CO2/kWh・大阪ガス 0.389kg-CO2/kWh それぞれ購入先に合わせて換算している。

※ 目標値は平成 18 年度を基準値として毎年度 1%削減した値である。CO2 排出項目は、平成 28 年度に目標を 10%上方修正している。

## 10. 会社周辺清掃活動



当社では、本社の地域をまとめる神戸流通センター連絡協議会による協力のもとで、2・6・9月に会社周辺のゴミ拾い、側溝の掃除等の周辺清掃活動を実施している。令和1年度は6/21、9/7、2/7の3回実施した。毎回、多くの社員が貴重な時間を割いての参加・協力を得て実施している。さらに、毎回多数の参加者が清掃活動に協力しているということで、平成 23 年度には感謝状を頂いており、当社としては励みになっている。今後も継続する。



また、毎月の月初めの朝礼後に、車輛・駐車場の点検、月初に会社構内の清掃を実施している。加えて、EA21 推進担当者により事務所内の整理整頓のチェックを月初めに実施している。さらに、第4金曜日には各自使用の駐車場スペースの清掃を、各自で行う活動を始めた。

これらは、部長会にて、EA21 の活動状況と合わせて構内及び駐車場の点検・チェックで発覚した問題点を報告して、仕事をする環境の改善を進めている。定期的に点検・報告することで、以前より会社がきれいに保たれている。これらは、今後も継続する。

## 11. 代表者の評価と見直し

令和1年度は、エネファーム(家庭用燃料電池コージェネレーションシステム)及び太陽光パネルの販売促進以外では、目標を達成することができた。本社では、エネファーム及び太陽光パネルの販売促進は、目標を超えたが、高砂営業所の事業所では、エネファーム及び太陽光パネルの販売促進で目標を大きく達成できなかった。結果、全社でもエネファーム及び太陽光パネルの販売は、目標を達成出来なかった。

建設現場では、全社ベースでは全ての項目で順調に目標を達成したが、高砂営業所の非開削工法による掘削土削減のみ目標を達成出来なかった。非開削工法による掘削土削減は、発注者様からの決められた工事しか施工できない為、その受注が少ないと目標を達成できない。平成20年度よりこの目標値を設定しているが、自社努力によらない面が大きいため、目標達成がかなり難しい側面がある。しかしながら今後も引き続きこのような工事を受注出来るように最大限努力する。

今年度はその他の項目に関しては、目標を達成できた。平成28年度まで、本社で人感センサー照明電気、高砂営業所で配線によるスイッチの増設、さらにノー残業デーを設定、夏期のガス空調機と扇風機を併用等の電気・都市ガス利用の効率化を行った。さらに、近年(平成26年度以降)本社事業所の都市ガス使用量の約80%程度を占めているガス空調機器の更新、CO<sub>2</sub>排出量が当社の経済活動の中で約60%を占める車両をハイブリッド車・低燃費車へ更新した。平成30年3月には、本社社屋をLED照明へ全面改修と施策を講じてきた。こうして主要項目の目標の未達成については、対応してきた。その甲斐もあって、多くの項目で目標を達成している。平成24年度、平成25年度では、前年度より使用量が、増加または削減幅が縮小した項目が出てきていた。しかし、平成26年度以降のガス空調機器の更新、ハイブリッドカー・低燃費車両導入、本社社屋をLED照明に改修して、さらに環境負荷低減を可能にしました。平成30年度時点で本社事業所では、ハイブリッド車が合計8台となっている。さらに、OA用紙使用量に関しても、維持管理部でタブレット端末を利用した報告・決裁等行うペーパーレス化により、削減に繋がった。

これらより、令和1年度は、全社でのCO<sub>2</sub>排出量は、対目標比33.1%削減・前年比7.7%削減した。今後も、投資したハード面を生かしながら環境活動を行い、毎年上がっていく目標の達成及び前年よりも成果を出したい。

## 12. 今後の活動の進め方



平成28年度以降はCO<sub>2</sub>排出項目に関して、目標より削減パフォーマンスが良かった為に、平成28年度以降の削減目標を当初より10%厳しい目標値に修正した。具体的には、平成30年度の当初目標は、平成18年度実績より12%削減だったが、平成18年度実績より22%削減のより厳しい目標値に修正している

目標を上げてより厳しくしても、取り組みを着実に実施して、目標並びに前年よりも、環境負荷を減らしたい。ガス設備機器の更新・高砂の電気設備改修・自動車の低燃費化などのハード面の改善を生かしながら、環境負荷活動を着実に実行し、問題点を是正しながら取り組めた。平成30年3月には、本社のLED電球への設備更新及びシュレッダー紙の再利用の開始を行った。これにより平成30年度は、電気使用量削減・一般廃棄物排出量削減の2項目で環境負荷低減を高いパフォーマンスで実現した。今後も、EA21活動を継続して進めて行きたい。

省エネガス機器の販売に関しては、新型コロナウイルスの影響もあり住宅着工戸数が減少する中で、目標の達成は難しいが、目標に向けて取り組みたい。原燃減少の代替エネルギーとしての都市ガス利用の為に、エネファーム(家庭用燃料電池コージェネレーションシステム\*)・太陽光パネルの販売促進も、昨年に続

き進めていきたい。

\*災害時のレジリエンス(強靱性)機能も有している(台風等に伴う停電時も自立運転で発電)

また、当社で最も環境負荷の大きい建設現場での、環境負荷の削減をより一層充実する事が必要である。設備工事業者である当社は、元請企業の現場での仕事が多い為、環境負荷を計測できる項目が限られている。そういった状況下の中で、これまでと同様に、元請企業の環境への取り組みに協力し、協力会社社員への環境教育を実施すると共に、環境管理・指導を強化する事が大切である。モノ安全衛生協力会での総会で、協力業者への環境活動の周知・教育を行いパートナーシップを強化し活動の徹底を推進する。そして、直接的生産活動の中でも環境負荷の低減に努めていく。



当社社長室のエコアクション 21 認証・登録証

最後に、世界共通の課題である SDGs(国連が設定した 17 の持続可能な開発目標)の取組についても、社内で勉強会を開始しました。SDGs取り組みの手始めとして EA21 の取り組みとの関連性を環境省の「SDGs活用ガイド」等を参照して紐付けを行いました。具体的には環境活動レポートに記載された各取り組みのところに、関連すると考えられる開発目標ロゴを貼り付けてみました。今後、EA21 の取り組みと併せて SDGsの取り組みも深化させていきたいと思えます。

以上

#### 本レポートの対象期間及び発行日等

対照期間 : 平成31年4月～令和2年3月

発行日 : 令和2年8月29日

対象組織 : モノ株式会社 本社、高砂営業所

活動内容 : ガス外内管機器工事、ガス設備維持管理業務、住宅設備関連機器販売、給排水衛生全般の設備設計・施工、舗装工事

表紙写真 : 神戸総合運動公園コスモスの丘(本社近隣)にて当社社員により撮影

次回環境レポート発行日

令和3年8月31日